

(2) 今月のキーワード 「スポットワーク」

人手不足が企業の重要課題として定着しつつあります。国内は人口減少傾向であり、労働力に供給制約があるなか、必然の結果とも言えます。労働力不足を受け、「スポットワーク」が存在感を高めています。働き手はスキマ時間を効率的に収入に換えられる一方、働き手の保護の観点からは課題も指摘されています。

【スポットワークとは】

一般社団法人スポットワーク協会（以下、同協会）によると、スポットワークとは、短時間・単発の（短い時間と期間だけ働く）働き方を指します。広義のスポットワークでは、雇用契約を結ばない“ギグワーク”を含みますが、同協会では、短時間・単発の就労を内容とする雇用契約を結ぶ“単発バイト”（狭義のスポットワーク）をスポットワークとしています。スポットワークを仲介する主なサービスでは、タイミーやシェアフル、メルカリハ口、LINE スキマ二等があります。

	拘束時間	雇用契約	ノルマ等への義務	
単発バイト（スポットバイト）	1時間～	○	×	狭義
ギグワーク	1時間～	×	×	広義
クラウドソーシング	納期による	×	○	
業務委託	委託元による	×	○	

（出所）一般社団法人スポットワーク協会

【副業のニーズとマッチ】

スポットワークサービス大手のタイミーの調査では、スポットワーク利用者の職業の54.0%が「正社員」と最も多く、「パート・アルバイト（11.8%）」、「学生（7.9%）」と続きます。一方で「スポットワークのみで生計を立てている」という人は0.6%と低位です。この結果からは、既に本業を持っている人が副業としてスポットワークを活用しているケースが多いことが想定できます。

【スポットワークの課題】

実際の現場では、スポットワーカーが予定されていた仕事と異なる仕事をさせられる等、雇用主とのトラブルを経験するケースも多くあるようです。スポットワークを仲介する企業からは、「働き手からも雇用主を評価する仕組みが設定されている。」との意見もありますが、トラブルや被害を未然に防止し、働き手を保護するという観点ではやや説得力に欠けると感じます。

【スポットワークの今後】

スポットワークは、副業との相性は非常に良いと考えられます。副業を認めている企業と連携することによって、働き手の労務管理などもスムーズになることが期待できます。他方、一例ではありますが、タイミーのスポットワークの職業別募集では、49%が物流等の単純・簡易作業となっています。働き手は一定の経験を積めたとしても、大幅なスキルアップは望めないかもしれません。スポットワークは、アルバイトや業務委託と近似しており、スポットワークサービスのみで大きな商圏となることは想像しづらいです。今後は、副業としてのスポットワークに加え、例えば、旅行先で宿の仕事を手伝いながら滞在を楽しむなど、趣味やイベントなどと掛け合わせることでスポットワークの可能性は広がっていくのではないのでしょうか。